

【日本で百日咳が流行中～タイ在住者も予防を～】(2025 年 4 月 22 日)

日本で百日咳が急増しており、厚生労働省によると 2025 年の報告数はすでに前年の累計を上回っています。百日咳は、長引く激しい咳が特徴の細菌性感染症で、世界中で見られます。すべての年齢層でかかる可能性がありますが、特に生後 6 か月以下の乳児では重症化しやすく、肺炎や脳症を合併し、まれに命に関わることもあります。

タイにお住まいの皆さまも、日本への一時帰国や旅行者との接触の機会を考慮すると、油断はできません。百日咳は、乳児期にワクチンを接種することが基本ですが、成長とともにその効果が弱まっていきます。特に問題となるのは、ワクチン接種がまだ行われていない新生児が、百日咳に感染した大人からうつされるリスクがある点です。このため、海外では妊婦や新生児の周囲の家族に対しても、ワクチン接種が積極的に推奨されています。

百日咳感染症(Pertussis)とは？

赤ちゃんから大人まで、どの年齢でも感染する可能性があります。

- 長引く激しい咳が特徴

咳の発作が 1～2 か月、時に 100 日(百日)も続くことからこの名前がついています。小児では、咳の後に「ヒューツ」という音を伴うことが多く、これが特徴的な症状です。特に 1 歳未満の乳児、なかでも生後 6 か月以下では命に関わる可能性もあります。

- 咳以外の症状

最初は鼻水や軽い咳など風邪のような症状から始まり、数日～1 週間後に激しい咳発作が現れます。嘔吐、顔面紅潮、無呼吸発作を伴うこともあります。

感染経路は？

飛沫感染です。咳やくしゃみによって菌が飛び散り、人にうつります。

治療は？

百日咳菌に対する治療として抗生剤が使用されます。また、咳を和らげる対処療法が行われます。

百日咳の予防は？

ジフテリア(Diphtheria: D)、百日咳(Pertussis: P)、破傷風(Tetanus: T)の 3 つの病気を防ぐための Tdap ワクチンを接種します。これは乳児期に DPT ワクチンを受けた人が、10 代以降に免疫を強める(＝ブースター)ために接種するワクチンで、欧米諸国を中心に海外では一般的に使われています。

タイと日本における百日咳ワクチンの接種状況

タイでは欧米諸国と同様に、乳幼児期に 3 回または 4 回の DPT 接種、さらに 4～6 歳での追加接種に加えて、10 代または成人期に Tdap による追加接種が推奨されています。

一方、日本では、従来の DPT に加えて、2012 年 11 月から不活化ポリオワクチン(IPV)を加えた DPT-IPV(四種混合ワクチン)が定期接種として導入されており、生後 3 か月以上 90 か月未満で 4 回の接種が行われています。しかし、百日咳ワクチンの免疫効果は 4～12 年で減弱するため、日本では免疫が低下した年長児や成人の感染が増加しており、その影響で予防接種を受ける前の乳児が感染するケースも見られ、世界的に課題とされています。

欧米では、妊娠のたびに妊婦とその家族が Tdap を接種することが推奨されていますが、日本では妊娠中の DPT ワクチン接種は任意であり、接種率は依然として低い状況です。

百日咳予防のために今できること

- 自身およびご家族の DPT ワクチン接種歴を確認
- 免疫が弱まっている可能性がある 10 代～大人は Tdap ワクチンの追加接種を検討
- 妊婦・乳幼児が身近にいる方は Tdap ワクチンの追加接種を検討

百日咳ワクチンの費用を教えてください。

	10～17 歳	成人(18 歳以上)	
受付・接種場所	小児科	内科	日本人健康診断センター
予約	不要／接種前に医師の問診があります		
日時	毎日／8:00-18:00	毎日／8:00-22:00	毎日／8:00-14:00
費用	1,200 バーツ～ (薬剤費のみ／医師診察費・病院使用料等が別途かかります)	1,400 バーツ (薬剤費・医師診察費・病院使用料等含む)	

※この費用は 2025 年 3 月 31 日まで有効

※当日接種できる医師をご案内します。

※乳幼児の接種は、小児科医と診察の上、接種歴や費用等を相談してください。

～妊婦さんご家族へ～

妊婦の Tdap ワクチン接種の効果とは？

- 妊婦さん自身が百日咳にかかり、生まれた赤ちゃんにうつしてしまうのを防ぐ効果
- 妊婦さんの体内でつくられた抗体が臍帯から赤ちゃんに移行し、生後の赤ちゃんの免疫を高く保持する効果

妊娠何週で接種するのが望ましい？

Tdap ワクチンを接種すると、約 2 週間で免疫効果が高まります。妊娠中であればいつでも接種可能ですが、胎児は妊娠 36～40 週の間に母体から抗体のほとんどを受け取るため、出生時の赤ちゃんの免疫を最適にするには、妊娠 27～36 週の間での接種が推奨されています。

妊娠中の副反応は？

これまでの研究から、妊娠中に Tdap ワクチンを接種しても、特別にリスクが高まることはないと確認されています。ただし、他のワクチンと同じように、接種した場所の痛み・腫れ、軽い発熱、だるさなどの一時的な副反応が出ることがあります。ごくまれに重度のアレルギー反応や重篤な副作用が起こる可能性もありますが、これは極めてまれです。気になる症状がある場合は、速やかに主治医へご相談ください。

参考：

- NIID 国立感染症研究所 海外の妊婦への百日咳含有ワクチン接種に関する情報 2019/1/29
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr-sp/2438-related-articles/related-articles-467/8561-467r10.html>
- NIID 国立感染症研究所 百日咳とは 2018/1/29
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/477-pertussis.html>
- CDC U.S. Department of Health and Human Services Centers for Disease Control and Prevention
Tdap(破傷風、ジフテリア、百日咳) ワクチン: あなたが知るべきこと
https://www.immunize.org/wp-content/uploads/vis/japanese_tdap.pdf
- 海外渡航者のためのワクチンガイドライン/ガイダンス 2019